



俺の最高のパートナー



●型枠工

M.S さん

思い出のエピソード

3.11、大船渡での被災と生還

2011年3月11日、地震があった当日、私たちは4人チームで大船渡の魚市場の新築工事の現場にいました。私はわりと何事にも冷静に判断できる方で、地震後すぐ「津波が来るから避難しなければ」と判断し、他の3人に「揺れがおさまったらすぐ車に来いよ!」と伝えました。すると、2人はすぐに来たけれど、横澤さんの姿はありません。心配になって現場に探しに行くと、遠くの方に

Yさんが見えました。「津波が来るぞ!逃げるから早く来い!」と叫ぶと、Yさんは一瞬立ち上がるのですが、すぐにしゃがみ込んでしまいます。どうやら大きな地震に驚いて腰を抜かし、歩けないでいるようでした。近寄っていって肩を担いで一緒に車まで戻り、無事4人で避難することができました。

高台から見た大船渡の津波の光景は、とてもこの世の



ものとは思えないものでした。津波が来ると、家と家の隙間に水が入り、水の引き際にまるで家の方から吸い付いていくかのように、水が家を土台ごと海の方にさらっていきます。絶対に津波は来ると思いましたし、こんな光景はもう見ることは無いだろうと、自分では冷静に見ていましたが、あまりにも衝撃が大きく、目の前で起きていることにだんだん現実感がなくなっていました。

ただただ呆然と1時間以上、津波の様子を眺めていました。その後、時間も遅くなつたので、気仙沼から釜石まで抜ける沿岸道を通り帰りました。大船渡は瓦礫だらけで、それを見ているだけで辛くなりました。帰り道、波の引き際に現れる海の底や、遠くで起こっている火災を見ながら帰ったことを覚えています。現場が地震で1mほど沈下したため、作業は一旦中止となり、その後しばらくしてから再開しました。

Yさんはたまに、「俺は命の恩人なんだから」と冗談のように話すこともあります。3.11の経験は、怖いなんていう言葉を通り越したすさまじい経験でしたが、なんとかYさんと無事に帰ってこられて良かったと思っています。



Yさんへのメッセージ

私はもう63才、あと何年働けるかわからないけれど、どこまでも一緒に頑張りましょう!!



TK plus

vol.20
2022年5月25日発行